

【主題】 園児の資質・能力を育む、幼保こ小・地域連携の在り方
～「10の姿」の見える化と、非認知能力の数値化を通して～

新潟市立新津第一幼稚園

園長 間嶋 哲

1 主題設定の理由

(1) 新潟市立幼稚園の役割

当園を含む新潟市立幼稚園が、以前から大切にしてきた理念の一つが、質の高い保育の保障である。2週ごとに作成する短期指導計画に基づき、幼児が自ら、遊ぶモノを手作りできる環境を整えていくことにより、園児の資質・能力を最大限に伸ばしてきた。

平成30年8月に『新潟市立幼稚園再編実施計画』が新潟市教育委員会から示された。当時あった10園が、今年度末までに5園になることや、当園を含む5園が拠点園として、新潟市内全ての保育施設のセンター的役割を担うことが謳われていた。

(2) 当園の現状と課題

当園が、センター的役割として求められたことが、幼保こ小の連携推進である。当園は新津第一小学校の敷地内にあり、73年前の創立時より、小学校長が園長を兼務している。そのため日常的に小学校との交流を長年に渡り行ってきた。

当園の修了児が主に進学する新津第一小学校は、16もの保育施設から入学（令和5年度現在）する。そこには真の多様性があり、在園中から他の園児と関わらせていくことが、いわゆる「小1の壁」「小1プロブレム」を解消する近道と考えた。併せて近年は、社会全体での少子化と、いわゆる「預かり保育」が制度化されていないことによる園児数の激減（今年度は満3歳児を含め、全園児22名）に見舞われ、同世代の子どもと関わらせていく必要性を強く感じていた。

また、当園は旧新津市の中心に位置し、機会あるごとに地元の商店街から招かれ、開催されるイベントに参加することも少なくない。ただ、どうしてもそこでは「ゲスト」の扱いに終始し、受け身になってしまう面があった。自分がやりたいことを見つけ、その思いを表出する等、自らの意思で地域の人々に働き掛ける態度については、まだ不十分さを感じていた。

(3) 育てたい資質・能力

幼稚園教育要領が改訂され、すでに6年が経過した。

そこでは、社会に開かれた教育課程の実現とともに、一人一人の資質・能力を一体的に育むことが求められている。その具体的な姿として『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』が10項目示された（以下「10の姿」と表記）。保育園、こども園を含む全ての保育施設、小学校にとって共通指針となるものである。

一方、一般的に幼児期に培いたい能力の一つに、子ども自身が幸せな人生を歩んでいくために必要とされる「非認知能力」がある。2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームス・J・ヘックマンは「ペリー就学前プロジェクト」で長期に渡る調査を行い、幼児教育と非認知能力の重要性を指摘している。

2 幼保こ小・地域連携の概要

(1) 9園との交流・連携

新津第一小学校区内には、当園以外に4つの園（Akiha 森のようちえん・にいつ愛慈こども園、新津認定こども園（さくらこども園）、認定こども園あおぞら）がある。園児同士の交流を行いたいと考え、まずは4園の園長に電話連絡し趣旨を伝えた。すべての園長から賛同をいただき、一昨年度後半から、年長組で交流を始めた。新型コロナ禍の時期でもあったため、当初考えていたほどの頻度での交流は叶わなかったものの、二度三度と交流するうちに、園児自身が積極的に相手に働き掛けたり、「次に会ったときは、〇〇しようね」という約束をしたりするようになった。



また今年度からは、新津第一小学校に入学する児童が比較的多い、新津東保育園、新津カトリック幼稚園、さらには、市立の新津第三幼稚園、西幼稚園、牡丹山

幼稚園、合わせて5園との交流も、年長組・年中組で始めた。西幼稚園、牡丹山幼稚園を除けば、どの園も十分に徒歩圏内にあり、気軽に行ったり来たりすることができる距離にある。

園児同士が交流する過程で、他園の教職員とも知り合い、保育の具体的な在り方や、園内施設の様々な環境について、意見交換することも自然に始まった。

(2) 新津第一小学校との交流・連携

新津第一小学校との交流をさらに進めるために、主に年長組と小学校1年生との交流の機会を増やした。小学校の放課後の時間、1年生の学年主任との打ち合わせを頻繁に計画し、生活科や体育を中心に年間指導計画の擦り合わせを行った。例えば、生活科で行う昔遊びなどでは、遊びで扱っている道具は同じであるので、一緒に活動が成立する。

小学校の休み時間には、園児と遊びたい小学生を募集し、園庭や遊戯室で一緒に過ごす時間を確保した。

小学校の図書館に出掛けて、見つけた昆虫の名前を知るために図鑑を探したり、図書館司書に尋ねたりする姿も生まれた。また、小学校の中を探検して、授業の様子を感じたり、小学校の屋上に上り、自分たちの幼稚園の園舎を俯瞰したり、屋上において身体を使った遊びをしたりすることもある。



また教職員同士の交流も盛んに行われている。人権教育等の、共通する研修内容がある場合はもちろんのこと、小学校1年生が入学しての約1か月に渡る教室参観では、幼稚園教諭の視点から、環境構成について意見交流を行った。さらには、当園を修了した子どもの問題事案が発生した際は、当時の担任も加わっての協議などを積極的に行ってきた。

さらには、新津第一小学校区アプローチカリキュラム検討会を夏休み中に実施した。前述した交流園に参加していただき、小学校1年担任とともに新津第一小学校区で「育てたい力」と「重点」を検討した。それを各園のカリキュラムに位置付け、保育を進めている。



(3) 地域等との連携

全園児が、自分たちが地域を探検したときは、担任と一緒に『地域マップ』にまとめ、廊下に掲示している。必要に応じて、園児自らが絵を描き、自分の想いを出している。地域に出掛け、そこででの出会いを園児自身が楽しんでいる様子が見られるようになった。



今年度から新潟市秋葉区にも拠点を増やした通信制高校、さくら国際高等学校の高校生5名を、就労体験として、合わせて6日間受け入れた。多くの生徒が、小中学校時代に不登校等を経験している等、当初は、受け入れる私たちも戸惑ったが、彼ら彼女たちは屈託のない園児とともに楽しい日々を過ごしていた。その後、学生ボランティアを希望する生徒も現れた。

3 「10の姿」と、非認知能力

(1) 「10の姿」の「見える化」

当園が目指す10の姿を、以下のように教育ビジョンとして反映させた(図1)。



図1 令和5年度新津第一幼稚園の教育ビジョン

その後、この教育ビジョンを基に、10の姿ごとに各学期で目指す姿、それぞれの学年で目指す姿を、簡潔な文と写真で細かく設定した(図2)。

これにより、具体的に目指す「10の姿」を常にイメージして保育にあたるようになった。



図2 「自立心」で目指す学年ごとの姿

最終的には毎学期、『成長のあしあと(幼稚園版通知表)』(図3)を園児一人一人ごとに作成し、個別面談時の説明資料とするとともに、保護者に手渡した。我が子の成長の様子を、毎学期、活動時の写真と、その様子を説明した文章で、10の観点から確認できる。保護者からは、我が子の成長の足跡が刻まれた一生の宝物として、賞賛をいただいている。



図3 Yさんの『成長のあしあと』

<10の姿のうち「自立心」の系統の一例>

○ 教育ビジョンに掲げた「自立心」の文章記述

「自分で考えて行動できる子どもを育てます」

○ 5歳児「自立心」の文章記述

「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動す

るようになる」

○ 年長組、Yさんの「自立心」の文章記述

「考えたことややりたいと思ったことを、最後までやり遂げる」

(2) 保護者アンケートから

毎学期行っている保護者アンケートを「10の姿」ごとに質問項目を設定し、4件法の回答形式にした。例えば、年長組の「自立心」の項目には「お子さんは、考えたことややりたいと思ったことを、諦めずにやろうとしていますか」という質問を設定した。

この結果、「10の姿」に関わる9項目に全家庭から80%以上の肯定的評価を得た。唯一、「道徳性・規範意識の芽生え」の項目のみが70%台に終わった。

(3) 小学校児童の実態調査から

非認知能力を一言で定義することは、とても難しい。当園の教育課程や様々な取組が、園修了後の子どもにどのように影響しているのか、何とか追ってみたいと考え、非認知能力をあえて単純化して定義したうえで、実態調査を試みることにした。

中央教育審議会、架け橋特別委員会での整理からは、非認知能力は、次のように定義されている。

主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素

- ① 自分の目標を目指して粘り強く取り組む
- ② そのためにやり方を調整し工夫する
- ③ 友達と同じ目標に向けて協力し合う

このままではまだ漠然としているため、これら①～③を右に示す①～③の言葉に置き換えた。

- ① がんばる力
- ② 工夫する力
- ③ 協力する力

まず、新津第一小学校の特別支援学級を含む担任の協力を全面的に得て、各クラスで上記3つの観点から「特に優れている」「優れている」と思う児童を挙げてもらった。絶対評価なので担任の見方によって、チェックする数に当然ばらつきは出る。特に優れている場合を2点、優れている場合を1点のポイントとして、後でカウントし統計処理を行った。

なお小学校担任は、ほとんどの場合、自学級の児童が、どの保育施設を修了した児童なのかについて知らない。当園の修了者であるか否かについては、別途、指導要録の学籍情報を参考に特定して統計処理をした。

小学校全体の傾向を知るため、次の式で『新津第一小学校児童の「非認知能力」達成度(A)』を求めた。

$$A = \text{全校児童の総ポイント} \div (2 \times \text{児童数}) \times 100$$

一方、当園修了者のみを母数として『新津第一幼稚園修了者の非認知能力』達成度(B)』を次の式で求めた。

$$B = \text{修了者の総ポイント} \div (2 \times \text{修了者数}) \times 100$$

AとBの割合(%)を比較し、AがBより数値が小さければ、新津第一幼稚園修了者が、他と児童と比べ非認知能力が高いと判断することにした。

令和5年10月下旬に調査を実施した。その結果は、下記の通りである(小数第三位を四捨五入)。

《調査結果》①がんばる力②工夫する力③協力する力

A 全校児童 397名

A	① (%)	② (%)	③ (%)	計 (%)
1年	15.74	9.26	10.19	11.73
2年	42.59	21.60	25.93	29.42
3年	21.43	15.87	21.43	19.31
4年	14.29	12.70	11.90	12.76
5年	8.06	8.06	4.03	6.72
6年	12.93	6.03	20.69	12.64
特支	25.00	12.50	25.00	11.11
合計	20.15	12.59	16.12	16.03

B 新津第一幼稚園修了者56名(全校児童の14.1%)

B	① (%)	② (%)	③ (%)	計 (%)
1年	0	50.00	0	16.67
2年	66.67	33.33	29.17	43.06
3年	25.00	25.00	37.50	29.17
4年	27.78	44.44	16.67	29.63
5年	7.69	19.23	0	8.97
6年	14.29	0	7.14	7.14
特支	16.67	0	0	11.11
合計	26.79	26.79	14.29	22.92
(A±)	(+6.64)	(+14.2)	(-1.83)	(+6.89)

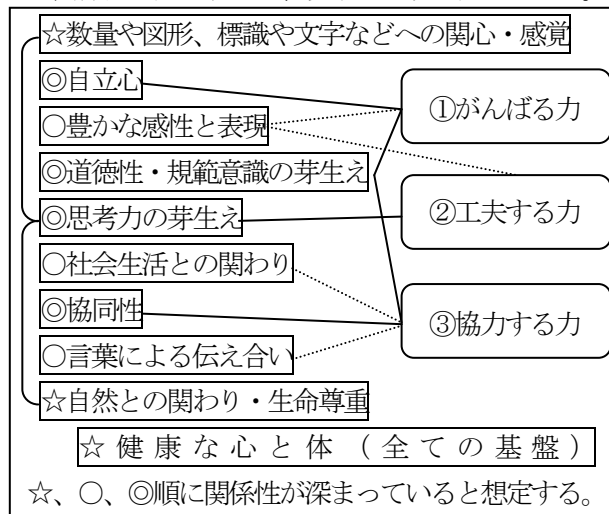
『新津第一小学校児童の「非認知能力」達成度』が16.03%であるのに対して、『新津第一幼稚園修了者の非認知能力』達成度は22.92%となり、6.89ポイント上回った。特に「工夫する力」は14.2ポイント上回った。一方で、「協力する力」については、1.83ポイント下回った結果となった。

4 まとめと今後の課題

これまで当園は、幼保こ小や地域連携を核にして、「10の姿」の育成に取り組んできた。一方、非認知能力として定義した3つの力、すなわち「がんばる力」「工夫する力」「協力する力」のうち、「工夫する力」「がんばる力」は伸びていると考えられる。「協力する

力」については、全体としてはやや下回ったものの、2年生から4年生までを見ると、上回っていることが分かる。

今後の課題として、「10の姿」と、3つの力との関係を整理する必要性を感じた。現時点において、これらの関係性を図示すると、以下のように捉えている。



非認知能力を3つの力に限定して調査したものの、あらためて新津第一幼稚園修了者の様子をつぶさに見ると、これら3つの力とは違う面を共通にもっていることに気付く。それは、常に素直で気持ちが平らであること。そして、「がまんする力」があることである。非認知能力が多種多様であることを踏まえ、今後は、3つの力に拘泥することなく、幅広く捉えていく必要性を感じている。

幼保こ小連携については、一昨年度より交流・連携している4つの園の保育教諭とともに新津第一小学校区アプローチカリキュラム検討会を行っている。そこでは、小学校1年学年主任から、入学期の児童の実態を聞き、接続期における共通にしたい重点や援助の在り方を検討し、接続期カリキュラムを加筆修正した。今後は、文科省が求めている架け橋期プログラムを、小学校とともに作成していく予定である。

私が目指す園経営の骨格は、『知性と笑顔にあふれた幼稚園』である。本実践研究は、園の教育目標『明るくのびのび遊ぶ子ども』を目指して、全教職員が知恵を絞りながら幼児教育に奮闘してきた足跡である。

園児にとって幸せ感に包まれた環境、そして、保護者自身も成長できる環境を、今後も提供していきたい。

【参考文献】

- 『幼児教育の経済学』ジェームズ・J・ヘックマン
- 中教審初中分科会・幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会～第2回会議までの主な意見等の整理～

資料1 令和5年度 新津第一幼稚園の「教育ビジョン」

新潟市立新津第一幼稚園

【教育目標】 明るくのびのび遊ぶ子ども

【研修テーマ】
友達と一緒に、身体を「ひと」の「もの」が「こと」の関わりを通して子ども自身の表現
→表現が「ひと」の「もの」が「こと」の面白い発見が「一年次」→

目覚めと心身
よく寝て、身体を動かして
遊ぶことが好きな子どもを育てます

生活力
自分で考えて行動できる
子どもを育てます

図形力
友達と力を合わせて
取り組める子どもを育てます

表現力-個性を大切に伸ばす
漢字や守るべき道徳性がわかり、相手の
気持ちも考えたり、自分の気持ちも表現
したりすることが出来る子どもを育てます

質の高い保育、「10の姿」からの振り返り
民間幼稚園の視察、研究発表の開催

**児童及び
技術の支援**

**多岐にわたる
表現力の向上**

非認知能力
主体性・協調性・創造性・探究心・
自己肯定感・関わる力（コミュニケーション力）・
やり抜く力・がんばる力・自覚心・共感性 など

地域との連携

新津第一小学校、近隣園との交流・連携

【質の高い保育】 【新津第一小学校・
近隣園との交流】 【地域との連携】 【保護者との連携】

資料2 Yさんの「成長のあしあと」

新潟市立新津第一幼稚園 5歳児もみじ組

さん 1学期の様子

【教育目標】 明るくのびのび遊ぶ子ども

【研修テーマ】
友達と一緒に、身体を「ひと」の「もの」が「こと」の関わりを通して子ども自身の表現
→表現が「ひと」の「もの」が「こと」の面白い発見が「一年次」→

目覚めと心身
よく寝て、身体を動かして
遊ぶことが好きな子どもを育てます

生活力
自分で考えて行動できる
子どもを育てます

図形力
友達と力を合わせて
取り組める子どもを育てます

表現力-個性を大切に伸ばす
漢字や守るべき道徳性がわかり、相手の
気持ちも考えたり、自分の気持ちも表現
したりすることが出来る子どもを育てます

**児童及び
技術の支援**

**多岐にわたる
表現力の向上**

非認知能力
主体性・協調性・創造性・探究心・
自己肯定感・関わる力（コミュニケーション力）・
やり抜く力・がんばる力・自覚心・共感性 など

地域との連携

新津第一小学校、近隣園との交流・連携

【質の高い保育】 【新津第一小学校・
近隣園との交流】 【地域との連携】 【保護者との連携】

あきは区役所だより

(発行所) 新潟市役所

里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち

2023年(令和5年)9月17日 第395号

編集・発行 新潟市秋葉区役所 (制作: 地域教育課)
〒956-8001 新潟市秋葉区程高2009番地
電話 0250-23-1000 (代表)
FAX 0250-22-0228
ホームページ <https://www.city.aki-gata.jp/akiha/>
Eメール chikisoona@city.niigata.jp

幼稚園

って
こんなところ!

遊びは学び! 幼稚園のここがすごい!

幼稚園では、「思考力の芽生え」や「社会生活との関わり」、「豊かな感性と表現」などの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に、質の高い保育を目指し取り組んでいます。区内の幼稚園は、それぞれ特色ある取り組みを行っています。

問い合わせ 秋葉区教育支援センター(☎25-5500)

自ら考える力を育てる

発表会の劇は、子どもたちの「興味」から始まります。興味のあることから題材を考え、自由な発想でお話を作り、歌や踊り、せりふ、衣裳や造形にまで至るまで、ほとんど全てを子どもたちと一緒に考えます。世界に一つだけの劇を作り、表現することを楽しみます。

また、カレーパーティーでは、どんなカレーにしたいか、そのためどんな材料が必要かを子どもたちが考えます。節から育てた野菜も使って、おいしいカレーを作り、年下の子に振る舞うことで、さらに充実感を味わっています。

与えるのではなく、子どもたちが考えて行動することを大切に、保育をしています。

一人一人と向き合い 成長を見守る

毎学期末に、子どもたち一人一人の「成長のあしあと」を作成しています。幼稚園教育要領で示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、一人一人の成長を写真で振り返るオリジナルの成長の記録です。子どもたちの成長はそれぞれ違います。その成長の様子を、それぞれの写真とともに、その姿に行きつづまでの過程や心の葛藤、経験などを保護者と共有し、目に見えない「心」や「非認知能力」も含めた成長を賞賛します。子どもも、保護者の喜ぶ姿、自分の姿を目にするすることで、自分の成長を幼児なりに自覚し、自信につなげています。

発達段階に合わせた丁寧な教育

一見すると、何気ない砂遊び。実は、遊ぶ年齢や子どもの思考の状況によって、用意する遊具や数、配置などを変えています。年少さんはまだまだ一人で遊びたいころ。繰り返し楽しめるよう、小さな遊具を人数以上に用意して、一人一人のスペースを確保しながら、じっくりと取り組める環境を作っています。年長さんには友達との協調性を高めるほしい。そのため、あえて一人で遊べない大きなケツや友達とつながりを持ちながら遊ぶことができる遊具も用意します。友達と一緒に考えること、力を合わせることでできる環境作りを大切にしています。毎日、同じように見える砂遊びでも、細かな援助があり、こうした「数珠の遊戯」は、保育のどの場面でも行われています。

新津第一小学校との連携

「小学校の田んぼに、オタマジャクシがいたよ!」「このイモムシの名前を調べ、(小学校の)図書室に行ってきます!」あひこ先生!。幼稚園の子どもたちにとって、小学校はとても身近な場所です。そして、小学校に行くことが大好き。楽しみにすることがたくさんあって、優しい先生がいる。お兄さん、お姉さんは、優しく遊んでくれたり、授業中は真剣な表情を見せてくれたり、とても憧れの存在です。教職員同士も、関わり方や環境などを考え合ったり、情報交換をしたりして、連携を重ねています。子どもたちの笑顔のために、積極的な連携を進めています。

それぞれ特色ある保育をしています

新津第一幼稚園

☎22-1269
所在地 新津本町4-4-3

新津第三幼稚園

☎24-8735
所在地 山谷町3-4785

幼稚園

☎22-1335
所在地 新160-3

満3歳児入園が始まりました

新潟市立幼稚園では、今年度2学期から満3歳児保育が始まり3歳の誕生日を迎えた日から入園できるようになりました。今年度、秋葉区の3園では、18人の満3歳児が入園します。

来年度の募集については、「新潟市立幼稚園令和6年度入園募集要項」をご覧ください。また、各幼稚園に連絡して様子をご案内いただくこともできます。一人一人に目を向けた質の高い保育の中でお子さんを育てていきましょう。

資料4 新潟教弘だより 第139号より

資料5 地域の方との交流～新津一・六市

新津第一流 幼小連携

～日常の中で連携を～

■新潟市立新津第一幼稚園 副 園 長 間 嶋 哲

小学校の廊下を幼稚園児が歩いています。小学校の図書室に調べものをしに行くためです。当たり前のように先生方や小学生と挨拶を交わし、教室の様子を垣間見ながら喜んでいく園児たち。時には、教員同士の打ち合わせを経て、小学校の授業に園児が参加することもあります。こうした日常での交流が行われ、園児にとって小学校や小学生は憧れの的となっています。今では、教員後の廊下で、小学校教員と幼稚園教員が、子どもの様子や支援の仕方を相談している姿も見られます。「交流」から「連携」へ、着実に歩みを進めています。

	月	火	水	木
1	5-2	4-1	新津2	2-3
2	3-1	6-1		